

Ⅲ 進路指導の充実改善

— 就労アセスメント実習の取組 —

Ⅲ 進路指導の充実改善

1. はじめに	85
2. 高等部3年間の現場実習の見直し	85
3. 就労アセスメント実習の取組	87
4. 成果と課題	94

Ⅲ 進路指導の充実改善 —就労アセスメント実習の取組—

1. はじめに

本校では、学校研究テーマ「キャリア発達支援の視点による小中高 12 年間を見通した学習活動の充実改善」を受けて、進路指導の充実改善に取り組んでいる。

一年次である平成 26 年度は、「中学部・高等部での進路指導の充実改善」として、中学部 3 年での就業体験と高等部 3 年間の産業現場等における実習に焦点を当て、活動に連続性を持たせられるように、中学部・高等部合同研究会や各部での実践を行ってきた。

二年次である平成 27 年度は、高等部 3 年間の産業現場等における実習（以下、現場実習と記す）の進め方を見直すとともに、昨年度試行した就労アセスメント実習を充実させることにした。

※就労アセスメント実習は、一般就労の可能性のある生徒が、高等部 1 年後期と高等部 2 年前期の現場実習期間に実施するものである。1 年後期では就労移行支援事業所の事業所内で、2 年前期では就労移行支援事業所の施設外就労先等で実習を行い、その中で、就労のためのアセスメントを実施する。

就労アセスメント実習は、就労継続支援 B 型事業の利用に係るアセスメント（いわゆる「直 B」のためのアセスメント）とは異なるものである。学校を卒業してすぐに就労継続支援 B 型を利用する生徒に対して、本校では、就労アセスメント実習とは別のアセスメントを実施している。

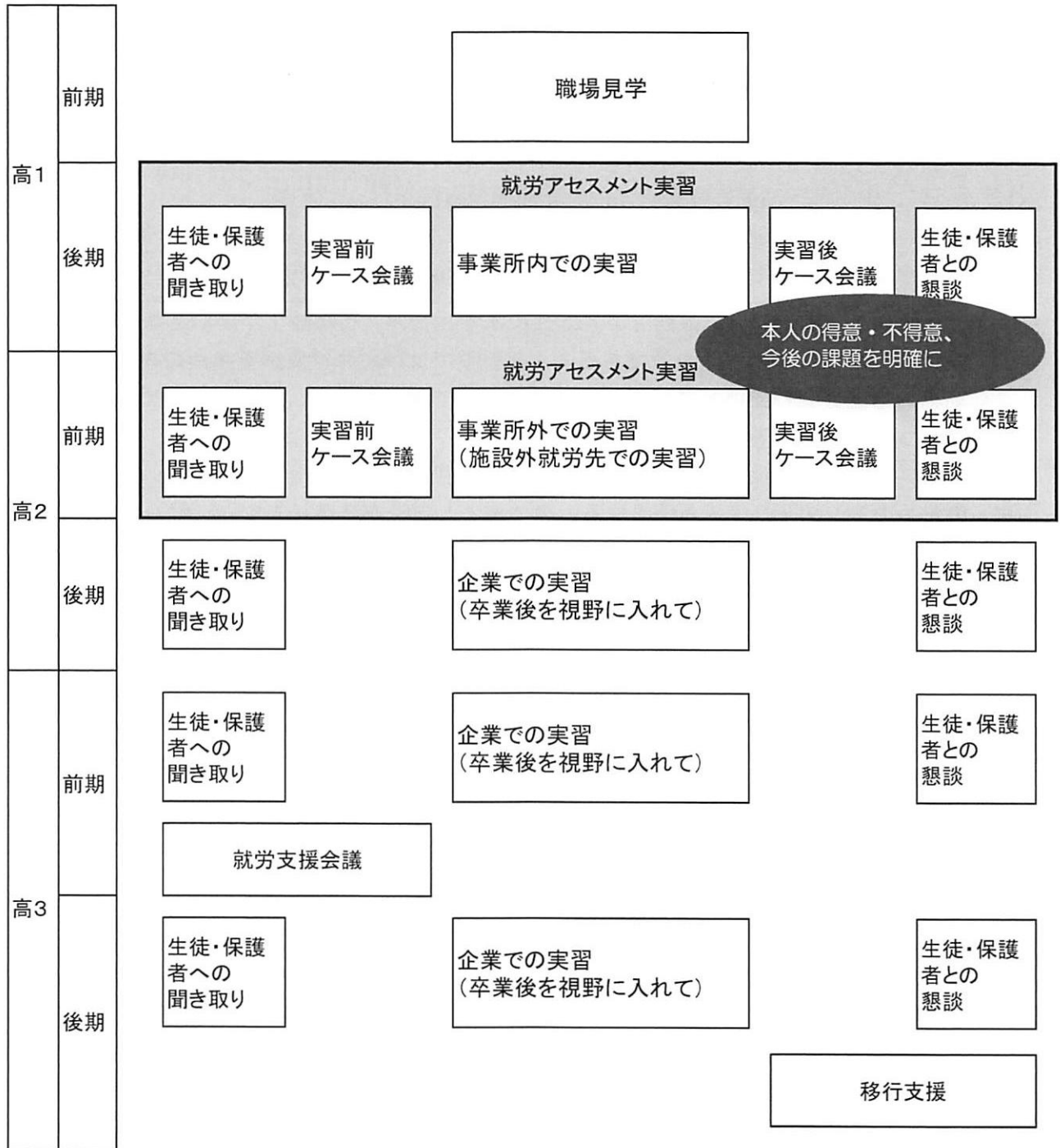
2. 高等部 3 年間の現場実習の見直し

高等部 3 年間の現場実習の進め方を見直すにあたって、高等部の教員で話し合いを行った。その中で次のような意見が挙がった。

- ・これまでの本校の学校研究を受けて、進路指導においても生徒の関与を大切にしたい。
- ・地域障害者職業センター等で行われている就業支援の観点から見直すと、インタークやアセスメントに該当する取組が不足しているのではないか。
- ・「高等部 2 年の時から実習を行って欲しい」という企業からの要望がある。

これらをふまえて、現在の現場実習の進め方を見直した結果、図Ⅲ-1（86 ページ）のようになった。この図は、一般就労の可能性のある生徒を対象としたものであり、障害福祉サービスを利用する可能性の高い生徒は、従来どおり、高等部 1 年後期から高等部 3 年後期まで、障害福祉サービス事業所での現場実習を行い、卒業後に利用する事業所を決定していく。

新しい現場実習の進め方では、高等部 1 年後期と高等部 2 年前期に、就労移行支援事業所（事業所内・施設外就労先）で就労アセスメント実習を行い、本人の得意・不得意等を明確にする。そして、就労アセスメント実習で得られたことをもとに、高等部 2 年後期から卒業後を視野に入れた企業での実習を行う。この現場実習の進め方は、平成 27 年度高等部入学生からを対象とする。



図Ⅲ－1 高等部3年間での現場実習の進め方（改善したもの）

3. 就労アセスメント実習の取組

(1) 就労アセスメント実習実施の理由

ここ数年、本校高等部には、卒業時の進路を選択するうえで、一般就労が適しているのか、就労移行支援事業や就労継続支援事業（A型・B型）の利用が適しているのかで迷っている生徒が多く在籍している。そのような状況下で、生徒本人・保護者・教師の三者で卒業後の進路を考えた中で、話し合いの材料として、外部からの評価を取り入れることの必要性を感じるようになっていた。そこで、就労移行支援事業所と連携した就労アセスメント実習を行うことにした。

(2) 一年次（平成 26 年度）の取組

一年次である平成 26 年度は、金沢市内にある就労移行支援事業所で、実習（3日間）とケース会（一人約 20 分間）を行った。実習では、就労移行支援事業所のプログラムに参加した。対象は、高等部 1 年で一般就労の可能性のある生徒とし、本人と保護者に説明をしたうえで、参加の意思を確認した。一年次は、高等部 2 年で一般就労の可能性のある生徒も対象とした。

一年次の取組では、次のような成果と課題が得られた。

- ・就労移行支援事業所のプログラムに参加したことで、生徒は、働くうえで自分にとってどのようなことが必要なのかを身を持って体験できたようである。また、生徒への対応がどの支援員からも同じ基準でなされていたことも、生徒にとって分かりやすかったようである。
- ・就労アセスメント実習の 3 日間だけが大切なのではなく、実習中の生徒のエピソードをもとに、年間を通して、教師が生徒や保護者と懇談をしたり、教師間で話し合ったりすることで、生徒一人一人にとっての働くうえでの課題を明確にすることができた。
- ・就労アセスメント実習の仕組づくりがまだ不十分である。就労移行支援事業所の支援員と本校教員との間での話し合いの機会をさらに設けていきたい。

また、研究協力者会議では、就労アセスメント実習の取組に対して、次の意見が出された。

- ・地域の就労移行支援事業所の機能を考えると、学校のほうがアセスメントをするための場や力を持っていると思う。就労移行支援事業所に一方的に頼るのではなく、学校のアセスメント機能も生かして欲しい。学校の中でどうアセスメントするかという方向も忘れずに意識してもらいたい。

(3) 二年次（平成 27 年度）の取組

①一年次からの改善点

一年次の成果と課題を受けて、二年次は、就労アセスメント実習を以下のように変更した。

- ・就労移行支援事業所と本校との連絡会を年間に 4 回実施する。会場は本校とし、1 回につき約 90 分間とする。参加者は、就労移行支援事業所の所長・支援員と、本校の副校長、進路指導主事、進路指導コーディネーター、研究主任、高等部 1 年担任である。
- ・実習前に、就労移行支援事業所と学校とでケース会を実施する。将来に対する生徒の思いや働くことに関する生徒の実態について共通理解を図ることを目的とする。
- ・生徒本人・教師・就労移行支援事業所の支援員の三者で共通した観点で実習の評価を行う。今年度は、就労移行支援事業所が作成・使用している「就労準備到達表」（95 ページ参照）を使用する。

②取組の概要

就労アセスメント実習に関わる一連の取組は、表Ⅲ－1 のとおりである。

6 月の職場見学の際に、実習を行う就労移行支援事業所の見学を行う。職場見学には、生徒・

表Ⅲ－１ 就労アセスメント実習に関わる一連の取組

月日	生徒	保護者
6月9日(火)	職場見学(一般企業、就労移行支援事業所、就労継続支援B型事業所の見学)	職場見学
6月10日(水)	進路学習(職場見学の振り返り)	
6月18日(木)	就労移行支援事業所と学校との連絡会(第1回)※教員のみ	
7月15日(水)		学年懇談
9月2日(水)	進路学習(わたしの将来について)	
9月9日(水)		現場実習説明会
9月16日(水)	進路学習(実習の目標の検討)	
	就労移行支援事業所と学校との連絡会(第2回)※教員のみ	
9月30日(水)	進路学習(就労準備到達表を用いた自己評価)	
1G:10月5日(月)～8日(木) 2G:10月19日(月)～22日(木) 3G:10月26日(月)～29日(木)	就労アセスメント実習	初日・最終日挨拶
1G:10月9日(金) 2G:10月23日(金) 3G:10月30日(金)	実習後の振り返り(学校にて) 実習後のケース会(就労移行支援事業所にて)	
1G:10月16日(金) 2G:10月30日(金) 3G:11月6日(金)	個別の指導計画 後期の目標の検討	
11月16日(月)～12月10日(木) (D男) 11月30日(月)～12月10日(木) (C子)	就労アセスメント実習(追加実習)	
11月16日(月)～19日(木)		保護者懇談
11月25日(水)	現場実習報告会	
12月9日(水)	就労移行支援事業所と学校との連絡会(第3回)※教員のみ	
2月中旬(予定)	就労移行支援事業所と学校との連絡会(第4回)※教員のみ	

* 就労アセスメント実習及びケース会は、2名ずつ3回に分けて行った。

「1G」は、1グループ(A男、B男の2名)、「2G」は、2グループ(C子、D男の2名)を表す。

「3G」は、3グループ(E男、F男の2名)を表す。

表Ⅲ－２ 就労アセスメント実習の内容

プログラムの名称	内容
基礎学習	メモ取り、認知課題、ピッキング、数値チェック、封筒の分類 等
パソコン	数値入力、文章入力、コピー&ペースト
軽作業	ボールペン組立、プラグ・タップ組立 等
グループワーク	ビジネスマナー 等

* 半日ごとに1つのプログラムを行う。

4日間の実習で、基礎学習を3回、パソコンを2回、軽作業を2回、グループワークを1回行う。

保護者・教師が参加する。職場見学の後には、振り返りを行ったり、昨年度の実習の写真・動画を見たりする。

9月には、自分の将来のイメージについてワークシートに記入すること、就労アセスメント実習の目標を立てること、就労準備到達表を使った自己評価の3つを行う。

10月には、生徒が2人ずつのグループに分かれて就労アセスメント実習を行う。就労アセスメント実習の内容は、表Ⅲ-2のとおりである。実習を行った週の金曜日には、学校での振り返りと就労移行支援事業所でのケース会を行う。ケース会には、生徒・教師・就労移行支援事業所の所長・支援員が参加し、生徒が就労移行支援事業所の方から直接評価を受ける。また、ケース会の翌週には、実習の振り返りを受けて、個別の指導計画の後期の目標を生徒と教師とで検討する。

③実践

ア. 生徒の実態

今年度、高等部1年で就労アセスメント実習を行った生徒は、男子3名、女子3名の計6名である。6名の生徒の実態は、表Ⅲ-3のとおりである。表のうち、「将来の夢」と「将来の仕事や生活について」は、9月2日の進路学習で生徒がワークシートに記入したものから抜粋したものである。「教師からみた実態」は、9月7日・14日に実施した進路指導ケース会議で話し合われ

表Ⅲ-3 生徒の実態

	将来の夢	将来の仕事や生活について	教師からみた実態
	生徒が記入したもの	生徒が記入したもののから抜粋	進路指導ケース会議で話し合われたこと
A子	(記入なし)	<ul style="list-style-type: none"> ・家から歩いていける職場を希望している。 ・一人暮らしをしてみたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・慎重に取り組むが、時間がかかりすぎる面がある。 ・小さい声で話すので、聞き取れないことがある。
B男	サッカー選手	<ul style="list-style-type: none"> ・バスや電車で通勤する職場を希望している。 ・友達と住んでみたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・苦手な仕事でも真面目に取り組む。 ・手先や体の使い方が器用ではない。
C子	おもちゃ屋さん	<ul style="list-style-type: none"> ・バスや電車で通勤する職場を希望している。 ・家族と住みたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一度言われたことは、次から守っている。 ・秋冬になると、気分や体調が崩れやすい。
D男	一人で頑張って生きていく	<ul style="list-style-type: none"> ・家から歩いていける職場を希望している(清掃を希望)。 ・家を買って住みたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・経験のある作業に対して「簡単です」ということがあるが、難しいことはすぐにあきらめてしまう。 ・朝眠そうにしていることが多い。
E子	小物作り(ビーズ・手芸など)	<ul style="list-style-type: none"> ・家から歩いていける職場を希望している。 ・一人暮らしをしてみたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・頑張って取り組んでいるが、途中でペースダウンすることがある。 ・まわりの大人に気づいてもらうのを待っていることがある。
F男	大人になりたい(父親をイメージしている)	<ul style="list-style-type: none"> ・家から歩いていける職場を希望している。 ・家族と住みたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プリンターを洗う作業では、時間はかかるがきれいに仕上げている。 ・話を聞く時に注意が逸れることが多い。

* A子・B男・F男は中学部から、C子・D男・E子は高等部から本校に在籍している。

たことの一部である。これらの内容は、9月16日に行った事前ケース会議で、就労移行支援事業所の所長・支援員にお伝えし、実習生についての情報を共有した。

イ. 就労アセスメント実習の評価と実習中の様子

(ア) 就労準備到達表による評価から考察されること

表Ⅲ－4は、実習後に就労移行支援事業所からいただいた生徒の評価である。この結果の中からいくつかの観点・項目について、実習中の生徒の様子について述べる。

「安定出勤」については、6人の生徒全員が自分で就労移行支援事業所まで4日間通っていた。実習先の就労移行支援事業所は、金沢駅西口を出てすぐのところであり、通勤しやすい場所にある。生徒のうち、普段の通学と違う路線のバスを利用する生徒は、保護者とともに、事前に通勤の練習をしていた。

「健康」のうち、「集中して仕事ができる体調である」が達成されていたのは、D男だけであった。実習4日目になると、それまでの3日間に比べて作業スピードが著しく落ちたり、眠気が生じたりする生徒が複数見られた。

「体力」については、6名とも半日のプログラムで特に休憩をとらずに行うことができた。自己評価で「体力に自信がない」としていた生徒もいたが、支障なくプログラムに取り組んでいた。

「報告・連絡・相談、質問」については、実習先の就労移行支援事業所では、報告の際に「〇〇さん、いまよろしいですか。△△が終わりましたので確認をお願いします。」という定型句がある。初日から定型句で言える生徒もいれば、4日目に定型句で言えるようになった生徒もいる。実習中に分からないことがあった時に、A子は自分で解決しようとして、質問に行くまでに時間を要していた。また、E子は支援員が様子を尋ねるまで待っていることが多かった。何もすることがない時に自分から相談しに行くことについても同様であった。

「特性理解」のうち、「他者評価を素直に受け止めようとしている」の項目については、6名の生徒全員が達成していた。

「作業力」については、まずは正確さを重視し、正確にできるようになったらスピードアップを意識することを求めている。C子は、プラグ・タップの組立の際に、六角ナットを入れる等の工程が抜けていたり、蓋の向きが曖昧なまま進めていたりしたことがあり、指示を理解できているか確認を要することがあった。

軽作業では、ストップウォッチで作業時間を計りながら取り組んでいる。D男は、早く作業を完了させようとして、複数のプログラムでミスが見られた。

(イ) 生徒による評価と就労移行支援事業所の支援員による評価との比較から考察されること

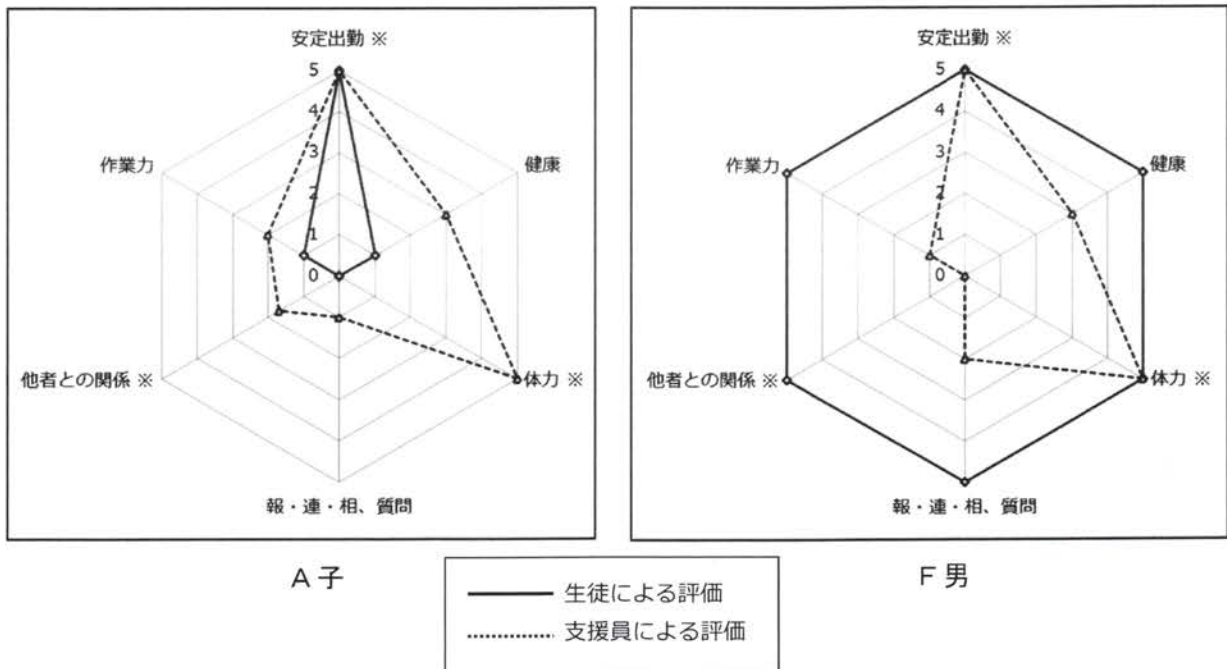
今回の実習では、就労準備到達表を使って、生徒・教師・就労移行支援事業所の支援員の三者で評価を行っている。生徒と教師は、実習前と実習後の2回、就労移行支援事業所の支援員は実習後に評価を行っている。ここでは、生徒の評価と就労移行支援事業所の支援員の評価との比較から推察されることについて述べる。

就労準備到達表は、実習先の就労移行支援事業所で作成・活用されているものである。9つの評価項目があるが、4日間の実習では就労意欲については評価できなかった。また、今回の実習は学校の制服を着て行ったため、身だしなみについても評価ができなかった。特性理解の項目についても評価できないものが多かった。そのため、就労準備到達表にある9つの項目のうち、6つの項目について比較を行う。

図Ⅲ－2で示したのは、これらの評価のうち、生徒が実習前に行った評価と就労移行支援事業

表Ⅲ－４ 就労移行支援事業所による評価（就労準備到達表に基づく評価・一部抜粋）

項目 / 生徒名		A	B	C	D	E	F
安定出勤	自分で通っている	○	○	○	○	○	○
	毎日通えている（定期通院日は除く）	○	○	○	○	○	○
健康	集中して仕事ができる体調である				○		
	メンタル面のコントロールができています（服薬調整も可）		○	○	○	○	
	休み明け、疲れを残さず出勤できる	○	○	○	○	○	○
	自分のリフレッシュ方法を知っている	○	○	○	○		○
体力	週5回、終日訓練できている	○	○	○	○	○	○
	訓練中、休憩を取らなくても作業できる	○	○	○	○	○	○
	1日中立位で訓練できる	○	○	○	○	○	○
報・連・相、質問	何もすることがない時、自分から相談に行ける		○	○	○		
	終了時の報告ができる	○	○	○	○	○	○
	自己判断せず聞いて、進められる				○		
	相手に聞こえる声で挨拶、返事ができる		○	○	○	○	○
特性理解	他己評価（企業、支援員など）を素直に受け止めようとしている	○	○	○	○	○	○
他者との関係	相手や会社を攻撃しない、悪く言わない（言動、ネット）			○	○	○	
	公私混同しない			○	○		
	好き嫌いに関わらず、仕事では、他者と協力できる	○	○	○	○	○	
作業力	ルール、手順を守る	○	○		○	○	○
	自己流にしない	○	○			○	
	最初に正確さを重視できる					○	



図Ⅲ－２ 就労準備到達表にもとづく本人評価と他者評価
（レーダーチャートで表したもの）

※「安定出勤」は2点満点、「体力」・「他者との関係」は3点満点であるが、5点満点に換算した。

表Ⅲ－５ 就労準備到達表にもとづく本人評価と他者評価
(項目ごとに点数を比較したもの)

項目 / 生徒名			A	B	C	D	E	F	平均	標準偏差
1	安定出勤	※	0	0	0	0	0	0	0	0
2	健康		-2	-2	0	-1	0	2	-0.5	1.4
4	体力	※	-3	-2	-1	0	-3	0	-1.2	1.3
6	報・連・相、質問		-1	0	2	0	0	3	0.7	1.4
8	他者との関係	※	-1	1	-1	0	-1	1	-0.2	0.9
9	作業力		-1	-2	3	2	0	4	1	2.2
平均			-1.3	-0.8	0.5	0.2	-0.7	1.7		
標準偏差			0.9	1.2	1.5	0.9	1.1	1.5		

* 4日間の実習では評価できなかった「身だしなみ」、「勤労意欲」、「特性理解」の項目については比較していない。※印の項目については、評価できた一部の質問事項についてのみ比較している。

所の支援員が実習後に行った評価をレーダーチャートで表したものである。

表Ⅲ－５は、就労準備到達表の評価項目ごとに、生徒による評価と支援員による評価との差を数値で表したものである。数値は、(生徒評価)－(支援員評価)の値であり、数値が正の値であれば本人評価のほうが高い、0であれば一致している、負の値であれば本人評価のほうが低いことを表している。

6名の生徒のうち、両者の評価の差が大きかったA子とF男について述べる。

A子は、ほとんどの項目で自己評価のほうが低かった。実習後のケース会で、A子は、就労移行支援事業所の支援員から「実習全体を通して、課題に対して確実に取り組んでいた」と直接評価を受けていた。しかし、実習後の振り返りでは、次の目標について「失敗しないように気をつけます」と書いていた。また、作業面での振り返りでは、「文字入力をしているときに漢字をまちがえてしまいました」と書いていた。大人にとってはちょっとした失敗であっても、A子にとっては大きな失敗として受け止めているようである。そのことが自己評価の低さとして表れた一つの要因であるように思われる。

一方、F男は、質問の内容を十分理解できずに○(できる)を付けていたようで、自己評価が高くなったようである。

(ウ) 実習中のエピソードから考察されること

ここでは、実習中のエピソードから考察されることについて述べる。

【B男】

B男は、基礎学習で取り組んだ認知課題で、図形の模写や同じ絵を探す課題で困難さが見られた。これらの課題は視覚認知に関する課題であり、認知の特性について今後学校で把握していく必要性を感じた。また、軽作業のプラグ・タップの組立では、ネジを床に落とすことが度々見られた。B男は、このエピソードについて「他の利用者が『終わりました』と言うのが聞こえた時に、焦ってネジを落とした」「細かい作業が大嫌い」という旨のことを話していた。B男は、学校のからだづくりの授業での様子からも、手指や身体の使い方にぎこちなさがある。これら2つの

エピソードから、B男に対する心身機能のレベルでの実態把握と支援の検討が今後必要であることが分かった。

【F男】

F男は、学校での作業学習でクリーン工房に所属し、環境整備作業に取り組んでいる。作業では、グラウンドの除草等の終わりの分かりにくい作業では注意が逸れやすいが、プランターを洗う作業や車の足下にあるシートに掃除機をかける作業等では時間がかかるがきれいに仕上げている。一方、今回の実習では、ピッキング課題で作業に集中して取り組み、ワークサンプル（幕張版）（MWS）のレベル5までミスなく取り組むことができた。これらのエピソードから、F男の得意・不得意を見極めて仕事を探すことの必要性を感じた。

ウ. 実習の振り返り

実習を行った週の金曜日には、学校で実習の振り返りを行うとともに、就労移行支援事業所でケース会を行う。ケース会には、生徒・教師・就労移行支援事業所の所長または支援員が参加した。生徒は、就労移行支援事業所の所長や支援員から直接評価を受けることで、身だしなみや態度の面で改善しようとする様子が見られた。



ケース会の様子

ケース会の翌週には、個別の指導計画の後期の重点目標を教師と生徒とで検討した。進め方としては、ケース会で話し合われたことを確認し、それに対する後期の目標を生徒と教師の両者から提案し、実現可能と思われる目標にした。6人の生徒の目標は、表Ⅲ－6のとおりである。

実習の評価と後期の目標は、11月中旬に行った保護者懇談（個人懇談）で、保護者に説明し、後期の目標については、保護者と意見交換を行ったうえで、決定した。

表Ⅲ－6 高等部1年後期の目標（生徒と教員が一緒に検討したもの）

	重点目標
A子	<ul style="list-style-type: none"> ・作業をする時に、スピードアップを意識して取り組む ・わからないことがあった時の尋ね方（言い方）を知る
B男	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の作業を確実に取り組む ・自分に合った仕事を見つける
C子	<ul style="list-style-type: none"> ・雨でも休まずに作業をする ・作業する時に、身だしなみを整える（髪をとめる）
D男	<ul style="list-style-type: none"> ・半日休憩をとらなくても作業できるようになる ・遅刻や欠席をする時に、学校が始まる前に自分から電話連絡をする
E子	<ul style="list-style-type: none"> ・作業などでわからないことがあった時に、自分から質問する ・自分の疲れ具合（体調・気分）について、自分自身で把握する
F男	<ul style="list-style-type: none"> ・教師と一緒に、得意な仕事（続けられる仕事）を見つける ・校内で特定の相手に電話をかけて、用件を伝える （教師が教室にいなくてもできる）

4. 成果と課題

今年度の就労アセスメント実習の取組を通して、以下に挙げる成果と課題が得られた。

【成果】

- ・実習前に、学校と就労移行支援事業所とでケース会を行うことで、生徒に関する情報を共有して実習を行うことができた。
- ・就労準備到達表を用いたことで、生徒・教師・就労移行支援事業所の支援員の三者が、生徒の現在の様子について同じ観点で評価をすることができた。そして、評価をもとに、実習後の目標を設定することができた。

【課題】

- ・就労準備到達表の項目のうち、4日間の実習では評価できない項目がいくつかあった。実習期間や評価項目について検討する必要がある。
- ・中学部3年から高等部3年の間に職場体験・現場実習を6回行うが、それぞれの実習でのねらいや重点項目を明確にする必要がある。
- ・就労アセスメント実習の際の服装を今年度は制服としたが、身だしなみについて評価するためには、制服ではなく、ビジネスシーンにあった服装にしたほうがよかった。

5. 次年度に向けて

今後は、高等部2年前期に行う予定である、施設外就労先での就労アセスメント実習をどのように実施することが可能であるかを検討する。また、高等部1年後期に就労移行支援事業所内で行う就労アセスメント実習については、今年度の課題をもとに改善していく。これらの取組を通して、高等部の進路指導が充実改善していくように取り組んでいく。

【謝辞】

就労アセスメント実習の実施にあたっては、就労移行支援事業所 LIAISON（リエゾン）の皆様大変お世話になりました。紙面をお借りしてお礼申し上げます。

参考文献

1. 本校研究紀要 平成26年度
2. 独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構（2015）「平成27年度版 就業支援ハンドブック」
3. 小川浩編著（2012）「障害者の雇用・就労をすすめる ジョブコーチハンドブック」エンパワメント研究所
4. 独立行政法人 高齢・障害者雇用支援機構 障害者職業総合センター（2004）「調査研究報告書 No.57 精神障害者等を中心とする職業リハビリテーション技法に関する総合的研究（最終報告書）」

参考資料

年 月 日 作成

名前	まえ
しょうらいの夢 将来の夢	
しごと 仕事について	
どんな仕事をしたいですか	
1日 何時間 仕事をしたいですか	
給料 いくらぐらい ほしいですか	
家が近いところがよいですか	() ある () 歩いていけるところ () バスや電車で行くところ
休みの日は、何曜日がいいですか	
すいかつ 生活について	
どこに住みたいですか	() 自宅 () グループホーム () アパート () その他
誰と住みたいですか	() ひとり () 家族 () 友達 () その他
いま 家でしている手伝い	
とくい 得意なこと	
にがて 苦手なこと	
す 好きなこと	

ワークシート「将来について」

名前	
学校(進路指導ケース会議)で話し合われたこと	
作業面	
生活面	
対人面	

学校(進路指導ケース会議)で話し合われたこと

安定活動	自分で通っている 毎日通えている(定期通日は除く) 必要な通費・乗費ができています 自分で決まった時間に起きられる(時 分) 遅刻、欠席の時は、就業前に電話ができる	○ ○ ○ ○ 計 5
健康	集中して仕事ができる体調である メンタル面のコントロールができています(障害調整も可) 食事習慣ができています 休み明け、疲れを残さず出勤できる 自分のリフレッシュ方法を知っている	○ ○ ○ ○ ○ 計 5
身だしなみ	職場に応じた服装 にがい(洗濯、洗濯機、休着、クリーニング) 入浴習慣(衛生感、洗髪、フック、ひげの剃削) 爪(長さ、汚れ) 仕事前・登壇後に身だしなみを確認している	○ ○ ○ ○ 計 5
体力	通勤、平日出勤できている 訓練中、休憩を取らなくても作業できる 1日中自分で訓練できる 怪我から通病者の通病を、避けるための動作を知っている 施設外旅行に行っても体調の悪化を誘わなくした	○ ○ ○ ○ 計 5
就労意識	2年以内に「働きたい」、「働かなければいけない」と思う 「好きなこと」「できること」の思いをわかっている 生活費と相対し、仕事の必要性がわかってきた 就労に必要な準備・努力ができる 特性に合う求人があれば、選考を受けたい	○ ○ ○ ○ ○ 計 5
特・強・弱、異動	何もしることがない時、自分から相談に行ける 終了時の帰路がわかる ミスや再発を防ぐことができる 自己評価せず聞いて、認められる 相手に聞こえる声で挨拶、返事ができる	○ ○ ○ ○ ○ 計 5
特性理解	訓練を通して、できること、できないことがわかってきた 得意(できる)と苦手(しない)の理解ができた 苦手への自己評価が見つかった 他社評価(企業、支援員など)を素直に受け止めようとしていた	○ ○ ○ ○ 計 5
他者との関係	相手や会社を攻撃しない、悪く言わない(異動、ネット) 公私混同しない 好きな人に聞かず、仕事では、他者と協力できる 協力してくれた人に「ありがとうございます」が書ける 思いやりを持って行動できる(アサーション)	○ ○ ○ ○ ○ 計 5
作業力	ルール、手順を守る 自己満足しない 事前に正確さを確認できる 正確さの次にスピードアップを意識できる 改善方法を取り入れ、実行している(例:メモ、段取り、シツ)	○ ○ ○ ○ ○ 計 5

就労準備到達表
(就労移行支援事業所で使用しているもの)

安定活動	自分で通っている 毎日通えている(定期通日は除く) 必要な通費・乗費ができています 自分で決まった時間に起きられる(時 分) 遅刻、欠席の時は、就業前に電話ができる	○ ○ ○ ○ 計 5
健康	集中して仕事ができる体調である メンタル面のコントロールができています(障害調整も可) 食事習慣ができています 休み明け、疲れを残さず出勤できる 自分のリフレッシュ方法を知っている	○ ○ ○ ○ ○ 計 5
身だしなみ	職場に応じた服装 にがい(洗濯、洗濯機、休着、クリーニング) 入浴習慣(衛生感、洗髪、フック、ひげの剃削) 爪(長さ、汚れ) 仕事前・登壇後に身だしなみを確認している	○ ○ ○ ○ 計 5
体力	通勤、平日出勤できている 訓練中、休憩を取らなくても作業できる 1日中自分で訓練できる 怪我から通病者の通病を、避けるための動作を知っている 施設外旅行に行っても体調の悪化を誘わなくした	○ ○ ○ ○ 計 3
就労意識	2年以内に「働きたい」、「働かなければいけない」と思う 「好きなこと」「できること」の思いをわかっている 生活費と相対し、仕事の必要性がわかってきた 就労に必要な準備・努力ができる 特性に合う求人があれば、選考を受けたい	○ ○ ○ ○ ○ 計 0
特・強・弱、異動	何もしることがない時、自分から相談に行ける 終了時の帰路がわかる ミスや再発を防ぐことができる 自己評価せず聞いて、認められる 相手に聞こえる声で挨拶、返事ができる	○ ○ ○ ○ ○ 計 5
特性理解	訓練を通して、できること、できないことがわかってきた 得意(できる)と苦手(しない)の理解ができた 苦手への自己評価が見つかった 他社評価(企業、支援員など)を素直に受け止めようとしていた	○ ○ ○ ○ 計 0
他者との関係	相手や会社を攻撃しない、悪く言わない(異動、ネット) 公私混同しない 好きな人に聞かず、仕事では、他者と協力できる 協力してくれた人に「ありがとうございます」が書ける 思いやりを持って行動できる(アサーション)	○ ○ ○ ○ ○ 計 3
作業力	ルール、手順を守る 自己満足しない 事前に正確さを確認できる 正確さの次にスピードアップを意識できる 改善方法を取り入れ、実行している(例:メモ、段取り、シツ)	○ ○ ○ ○ ○ 計 5

就労準備到達表(今回の実習で評価できなかった項目を灰色で塗りつぶしてあるもの)